The Journal of Kyushu University
of Nursing and Social Welfare
2003, Vol. 5, No.1, 205-213

ISSN 1344-7505

保育園に通う子どもを持つ親の“子育て生活”に関する満足度と支援ニーズ

緒　方　妙　子*

要　　旨

平成10年度の厚生白書は，日本の急速な少子化の背景を，「結婚や子育てに『夢』を持てない社会になったのではないか」，と問題提起している。「共働き」が普通となった現在，“子育て生活”を楽しむ時間は制限されるであろうが，そこではかけがえのない豊かさや夢も又実感されているのではないかと思われる。そこで，子育てに夢を持てる社会の実現を目指して，保育園に通う子供を持つ親（共働き）50所帯に，“子育て生活”の満足度とそれをより豊かにするための社会的支援や教育ニーズの実態について調査した。

調査期間は2000年1月8日～27日に行なった。方法は独自に作成した“子育て生活”の満足度に関する８項目(満足感,おもしろみ,やりがい,自信,etc.)の５段階尺度調査，７項目(育児方針,楽しんでいること,手に入れたもの,失ったもの,現在学習したい内容と支援事業ニーズ,etc.)の選択肢調査;及び半構成型,自由記載式とを組み合わせた記述式調査で行なった。その結果は、回収率54％(女性26名,男性21名)であり、女性群は「大変満足」が２割で男性群の約２倍あったが,「不満」の割合も又高かった。教育ニーズは男性には半数以上があまり意識されていない。支援ニーズは,「経済的負担の軽減」が男女とも多かった。

Key words：子育て生活，満足度，社会的支援，教育ニーズ，男女共同参画社会

1．はじめに

平成10年度の厚生白書は，日本の急速な少子化の背景を，「結婚や子育てに『夢』を持てない社会になったのではないか」，と問題提起している。「共働き」が普通となった現在，子どもと共に過ごす時間は，母親も父親もかなり制限されているのではないかと予測される。また親自身が，少ない兄弟の中で育った人も多く，子育てに戸惑ったり，孤立化しながら生活していることも指摘されている。そのような中で親は，“子育て”に伴う労苦をどのように受け止めながら生活しているのであろうか。そこではかけがえのない豊かさや夢も又実感されているのではないかと思われる。マスメディアでは子育ての困難さがクローズアップされ，多くの若者や，子育て中の両親への影響も懸念される。

そこで，「子育てに夢を持てる社会」のミクロレベルでの実現を目指して，現在子育て中の親の，“子育て生活”の楽しさと，それをより豊かにするための社会的支援や教育ニーズを明らかにすることにより，地域にいる子育て世代の現実理解に迫ることとした。

2．調査目的

子育て過程(乳幼児)にある親の“子育て生活”の楽しさに関する意識と社会的支援や教育ニーズを明らかにする。

3．調査対象と方法

対象：郊外の住宅地周辺に位置する私立M保育園に通園している児童の親100名程度(乳

* 九州看護福祉大学　看護福祉学部　看護学科

幼児を育てている母親50名，父親50名程度）

方法：独自に作成した“子育て生活”の満足度に関する８項目の５段階尺度調査，７項目の選択肢調査,及び半構成型,自由記載式とを組み合わせた記述式調査。調査期間は2000年１月８日～27日。50所帯に手渡し，返答は保育園へ持参，又は郵送。

倫理的配慮：無記名アンケートである。またアンケートの挨拶文で，個人が特定できる形での結果やまとめは行わないことをお知らせし，ご協力を頂いた。

４．調査内容

１)基礎データーとして性別，年齢，職業，同居家族,子どもの数と性別および年齢，兄弟姉妹の数，親になる前の子どもの世話体験，を調査した。

２)“子育て生活”の①満足感，②おもしろみ，③自己成長感，④やりがい，⑤自信，⑥喜びか苦労か，⑦経済的負担感，⑧子どもと遊ぶ時間の有無，についての５段階尺度調査

３)①子育ての育児方針，②子育てで楽しんでいること，③子育てで手に入れたもの，④子育てで失ったもの，⑤迷いや悩みの解決手段，⑥親となるための教育の必要性と内容，⑦現在学習したい内容と支援事業ニーズ，についての選択肢方式調査。

４)①親としての思いと努力，②子育てに伴う喜びと苦労の体験・出来事，③子どもを持ってからの自己の変化や人間関係の変化，④子育てで学んだこと，⑤子育て生活を豊かにするために望むこと，についての記述式調査。

５．結果

今回は上記の調査内容1)2)3)の結果について主に報告する。

50所帯中27所帯の返送があり，回収率は54％であった。有効回答のものは26所帯で，21組の夫婦と女性のみ5名であり，合計47名(女性26名，男性21名)であった。

１）　基礎データー

【年齢構成】

女性の親26人中，20～24歳は３人，25～29歳は９人，30～34歳は６人，35～40歳は５人,40～44歳は１人，45～49歳は２人であった。男性の親21人中，20～24歳は１人，25～29歳は７人，30～34歳は３人，35～40歳は７人，40～44歳は１人，45～49歳は１人，50歳以上は１人であった。

【職業】

女性の親26人中，「勤め」は11人，「自営業」３人，「パート」11人，「その他」１人であった。男性の親21人中「勤め」は18人，「自営業」は３人であった。

【家族構成】

有効回答の26所帯の内訳は，核家族－16所帯(61.5％)，拡大家族－６所帯，母子と拡大家族－２所帯，母子家族－２所帯であった。

【子どもの数による分類】

子どもの数１人が26所帯中10所帯で38.6％，２人が11所帯で42.3％，３人が４所帯，４人が１所帯であった。対象集団全体の子ども数は女児が26人，男児が22人であった。

【兄弟の有無】

女性の親26人中，自分が「一人っ子」は２人，二人兄弟(姉妹)16人，三人兄弟(姉妹)７人，四人兄弟（姉妹）が１人であった。男性の親21人中「一人っ子」は１人，二人兄弟(姉妹)11人，三人兄弟(姉妹)８人，四人兄弟(姉妹）が１人であった。

【子供の世話経験】

女性の親26人中，子供の世話経験が「よくあった」者は６人，「たまにした」者は10人，「全くない」者は10人（38.5％）であった。

男性の親21人中，子供の世話経験が「よく

あった」者は２人，「たまにした」者は７人，「全くない」者は12人（57.1%）であった。

２）“子育て生活”の５段階尺度調査

①満足感　（Ｑ１．子育て中の，今の生活に満足感がありますか。）

図１に示すように，女性は「大変満足」とする者が19.2%で男性の約２倍あるが，「まあ満足」まで含めた割合は男性の方が10%以上多

表１　“子育て生活”の５段階尺度調査結果

④やりがい

	おおいに感じる	少しは感じる	どちらともいえない	あまり感じない	まったく感じない	計
女性	9(34.6)	10(38.5)	7(26.9)	0	0	26
男性	4(19.0)	6(28.6)	10(47.6)	1(4.8)	0	21
計(%)	13(27.7)	16(34.0)	17(36.2)	1(2.1)	0	47

⑤自信

	おおいにやれている	どうにかやれている	よくわからない	少し自信がない	まったく自信がない	計
女性	1(3.8)	18(69.2)	3(11.5)	4(15.4)	0	26
男性	2(9.5)	9(42.9)	7(33.3)	2(9.5)	1(4.8)	21
計(%)	3(6.4)	27(57.4)	10(21.3)	6(12.8)	1(2.1)	47

⑥喜びか苦労か

	はるかに喜びの方	どちらかと言えば喜び	よくわからない	どちらかと言えば苦労	はるかに苦労の方	計
女性	11(42.3)	10(38.5)	3(11.5)	2(7.7)	0	26
男性	5(23.8)	7(33.3)	7(33.3)	2(9.5)	0	21
計(%)	16(34.0)	17(36.2)	10(21.3)	4(8.5)	0	47

⑦経済的負担感

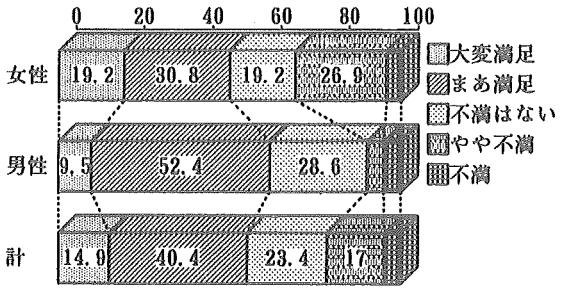
	かなり重い	どちらかといえば重い	それほど重くない	どちらかといえば軽い	かなり軽い	計
女性	4(15.4)	9(34.6)	13(50.0)	0	0	26
男性	2(9.5)	7(33.3)	10(47.6)	2(9.5)	0	21
計(%)	6(12.8)	16(34.0)	23(48.9)	2(4.3)	0	47

⑧子どもと遊ぶ時間の有無

	十分ある	まあまあある	少しある	あまりない	ほとんどない	計
女性	2(7.7)	11(42.3)	6(23.1)	5(19.2)	2(7.7)	26
男性	0	9(42.9)	6(28.6)	3(14.3)	3(14.3)	21
計(%)	2(4.3)	20(42.6)	12(25.5)	8(17.0)	5(10.6)	47

い。やや不満，不満は女性の約３割の者に見られている。

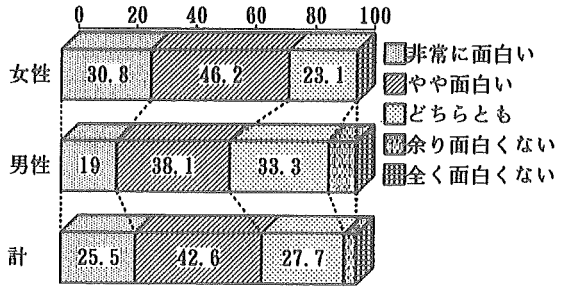
図１　満足感



②おもしろみ（Ｑ２．子育てはおもしろいですか。）

図２に示すように，「非常に面白い」とする者は女性の約３割で男性より10％以上多い。「面白い」まで含めると女性の４分の３以上が入るのに対し，男性は「どちらともいえない」，「あまり面白くない」をあわせると40％以上となり，子育てを楽しめていない割合が多い。

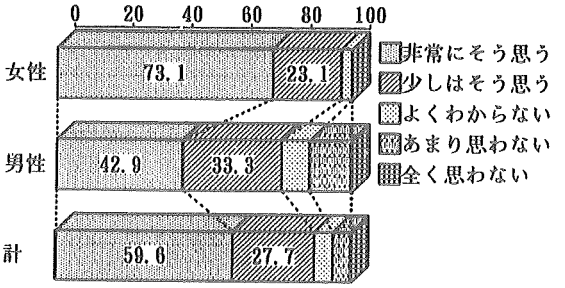
図２　おもしろみ



③自己成長感（Ｑ３．子育ては自分自身を成長させると思いますか。）

図３に示すように，「非常にそう思う」「少しはそう思う」と自己成長を肯定している者は女性の95％以上，男性の75％以上である。男性の20％は，「良くわからない」，「あまり思わない」とも答えている。

図３　自己成長感



④やりがい（Ｑ４．子育てはやりがいを感じますか。）表１

子育てのやりがいを「おおいに感じる者」は，女性が34.6％，男性が19.0％である。男性は「どちらともいえない」，「余り感じない」をあわせると半分以上となる。女性の26.9％が「どちらともいえない」としている。

⑤自信（Ｑ５．子育ては自信をもってやれていますか。）表１

子育ての自信については、「おおいにやれている」とする者は男性の方が多い。その一方で「よくわからない」，「少し自信がない」，「全く自信がない」を合わせた割合は男性が約半数で，はるかに多い。女性では「どうにかやれている」者が約７割であるが，「少し自信がない」，「よく分からない」とする者も２～３割いた。

⑥喜びか苦労か（Ｑ６．子育ては喜びと苦労、どちらが大きいですか。）表１

「はるかに喜びの方」とした者は，女性が男性より20％程多く，「どちらかといえば喜び」とした者を含めると，女性の80％以上は喜びと答えている。それに対し，男性は「よくわからない」，「どちらかといえば苦労」とした割合は40％を超えている。

⑦経済的負担感（Ｑ７．子育ての経済的負担をどの程度感じていますか。）表１

経済的負担感は「それほど重くない」とした者が男女共約半数で一番多いが，その次が「どちらかといえば重い」であり，30％以上であった。「かなり重い」とした者も１割以上であった。

⑧子どもと遊ぶ時間の有無（Ｑ８．子どもと遊ぶ時間はありますか。）表１

子供と遊ぶ時間は「十分ある」とした者は女性の7.7％にしか過ぎなかった。「まあまあある」は男女共40％程度であった。「少しある」が25％程度であり，「あまりない」，「ほとんど

ない」を合わせると男女共30%近くになった。

3）選択肢調査

①子育ての育児方針（Q 9．あなたのお気持ちに近いものを1つだけあげて下さい。～1)世の中のお役に立てる人に育ってほしい，2)こころにゆとりのあるおおらかな人に育ってほしい，3)人生を自由に楽しんでほしい，4)お金持ちや社会的地位の高い人になってほしい，5)自己を向上させることができるようになってほしい，6)身近な人と平凡に暮らしてほしい，7)その他～選択肢調査。）

男女とも「こころにゆとりのあるおおらかな人に育ってほしい」がトップで女性13人(50.0%)男性 9人(42.9%)，次に「自己向上できる人」女性6人(23.1%)男性6人(28.6%)，「人生を自由に楽しむ人」女性5人(19.2%)男性4人(19.0%)，「世の中のお役に立てる人」女性 1人男性 2人，という順であった。「お金持ちや社会的地位の高い人」，「平凡に暮らす」は誰も選ばなかった。「その他」を選んだ1人は,「相手の気持ちを考えられるやさしい人」であった。

②子育てで楽しんでいること（Q10. 日々の“子育て”の過程で楽しんでいることは何ですか。～1) 子供の発達，2)家族関係，3)友人・地域の方々との交流，4)その他～選択肢調査，複数回答可)

「子供の発達」が女性22人(84.6%)男性18人(85.7%)で一番多く，次に「家族関係」女性13人(50.0%)男性9人(42.9%)，「友人・地域の方々との交流」女性8人(30.8%)男性7人(33.3%)の順であった。「その他」は女性1人で，「子供と一緒にチャレンジできること」であった。

③手に入れたもの（Q11.子育てで，手に入れたものは何だと思いますか。～1)ゆとり，2)遊 び，3)豊かさ，4)ふれあい，5) 活 力，6) 夢，7)その他～選択肢調査，複数回答可)。

女性では「ふれあい」，「活力」が共に14人(53.8%)で多く，次に「夢」7人(26.9%)，「豊かさ」6人(23.1%)，「ゆとり」・「遊び」は共に3人(11.5%)であった。「その他」の記述では，「喜び」，「楽しさ」，「笑顔」，「 親としての子供の見方」，「学び」であった。 男性では「夢」12人(57.1%)，「活力」8人(38.1%)，「ふれあい」7人(33.3%)，「遊び」4人(19.0%)，「ゆとり」3人，「豊かさ」2人であった。

④子育てで失ったもの（Q12.子育てで，失ったものは何だと思いますか。～1) ゆとり，2)遊 び，3)豊かさ，4)ふれあい，5) 活 力，6) 夢，7)その他～選択肢調査，複数回答可)

男女共「ゆとり」が最も多く，女性14人(58.3%)，男性9人(47.4%)であった。男性では次に「遊び」5人(26.3%)，「なし」4人(21.1%)，「豊かさ」2人の順であった。女性では次に「なし」4人(16.7%)，「遊び」4人(16.7%)，「時間」3人(12.5%)「自由」2人「豊かさ」2人であった。

⑤子育ての迷いや悩みの解決手段（Q13. 迷い(悩みや問題)を解決する際の主な方法，手段について教えて下さい。～1) 自分自身のみで 2)夫婦のみで 3)家族に相談して 4)友人に相談して 5)地域の方々と相談 6)保育士,教育,福祉,医療関係者 7)その他～選択肢調査。）

女性では「家族に相談」がトップで16人(61.5%)，次に「保育士,教育,福祉,医療関係者」9人(34.6%),「友人に相談」7人(26.9%),「夫婦のみで」3人(11.5%)，「自分自身のみ」1人，「地域の方々と相談」1人の順であった。男性では「夫婦のみ」がトップで7人(41.1%)，次いで「家族」，「友人」共に6人（35.3%)，「保育士,教育,福祉,医療関係者」1人の順であった。

⑥親となるための教育の必要性と内容（Q14.親となるために特別な教育やサークル活動等が必要だと思いますか。～はい,いいえ～

その内容内訳；1）中学・高校の段階で，子育て中の人々とのふれあいが出来る場面を設定する，2）これから親になる社会人のために，地域の保育園，幼稚園，小学校を開放してその子供たちや親たちと触れ合えるような教育プログラムを提供する，3）妊娠中の両親(母親)学級での教育を権利として受けられるように整備する，4）乳児期の子供を育てる親への家庭訪問やデイサービスを公的費用で援助する，5）その他～選択肢調査。)

親となるために特別な教育の必要性を感じている者は，女性では17人(68.0%)，男性9人(42.9%)であり，男性では必要と感じていない者が約60%で多かった。必要性を感じている者の内容内訳は，「これから親になる社会人のために，地域の保育園，幼稚園，小学校を開放してその子供たちや親たちと触れ合えるような教育プログラムを提供する」が女性10人(40%)，男性7人（33．3%)，「中学・高校の段階で，子育て中の人々とのふれあいが出来る場面を設定する」が女性7人(28.0%)，男性6人(28.6%)で男女とも多いが，女性では「乳児期の子供を育てる親への家庭訪問やデイサービスを公的費用で援助する」10人(40.0%)，「妊娠中の両親(母親)学級での教育を権利として受けられるように整備する」8人(32.0%)も多かった。

⑦現在学習したい内容と支援事業ニーズ（Q15.学習したいことや，支援事業としてあってほしいことは何ですか。）　表2

「経済的負担の軽減」は女性13人(54.2%)，男性11人(57.9%)で，男女共かなり多かった。女性では「子育てと両立する仕事への案内講座，ボランティア活動への参加」11人(45.8%)，「子供の健康生活の学習会」10人(41.7%)が多かった。「幼児期までの子育て休暇制度」は女性9人(37.5%)，男性6人(31.6%)で，男女共比較的高い希望となっている。男性では，「その他」で「必要なし」とした者が2人いた。

6．考察

5段階尺度による子育て生活の「満足感」，「面白み」，「やりがい」，「喜びか苦労か」は，共通する内容も含まれる為か，女性群と男性群では似た様な傾向であった。「大変満足，非常に面白い」等の充実度が高いのは女性群の方であり，男性群の割合の約2倍となっている。男性群は「よくわからない」や「あまり･･･」の割合が女性群より高いのが特徴的であった。ただし，満足感の点では，女性群の不満割合も多いのは見逃せない。乳幼児の場合には，母親は父親より世話を多くしていることが普通と思われるので，それだけ充実感も多いのではないかと思われる。一方思うようにいかない場合には葛藤も多く，不満感を抱く機会もまた多いと思われる。

個人別に見ると，子育て生活の「満足感Q．1」で最下位の「不満」をつけたのは一組の夫婦であり，経済的負担においても「かなり重い」とし，特別な教育の必要性は二人とも「必

表2　学習したい内容と支援事業ニーズ

	女性(24人中の%)	男性(19人中の%)
1）子供のしつけや家庭教育の学習会	5(20.8%)	6(31.6%)
2）子供の健康生活（丈夫な体質の養育、事故や感染症予防、歯科衛生等）の学習会	10(41.7%)	3(15.8%)
3）親としての能力拡大（子供の喜ぶ料理の作り方、手芸等）のための講習会	6(25.9%)	3(15.8%)
4）子育てと両立する仕事への案内講座、ボランティア活動への参加	11(45.8%)	3(15.8%)
5）経済的負担の軽減	13(54.2%)	11(57.9%)
6）幼児期までの子育て休暇制度	9(37.5%)	6(31.6%)
7）その他（　　）	病児保育1(4.2%)	なし2(10.5%)

要なし」であった。記述式項目は二人とも「記述なし」であり，「満足感」には夫婦関係や家族関係との関連も示唆された。「やや不満」と応えた女性群7人の背景は，25歳～30歳が4人，30～34歳が3人で，母子家庭が2人であった。記述内容を探ってみると，「子供が体調不良，病気がちの時困った」や，「自分自身の仕事や体調不良の自覚」，「子供と接する時間の不足」等が関係しているのではないかと思われた。

「自己成長感」では，女性は「非常にそう思う」が7割以上であり，男性の4割をはるかに上回る。男性は子供と遊ぶ時間もあまり多くないことがわかったが，子供ともっとかかわれれば「子育て」から得られる自己成長感の割合も増加していくのではないかと思われる。記述式調査の「学んだこと」の中では、「自分自身が楽しまないと子供も豊かにならない」「子供はいろんな発想をするので，物事の見方に幅とゆとりが出てきた」「子育ての難しさを通して，自分自身の両親への感謝が出てきた。」「子供は純粋で正直。親の言動をしっかり見ているのでよい背中を見せる努力をしている。」「人ひとりの重さ，命の尊さを知った。」「親としての責任感，根気強い忍耐力がついた。」「人に対するやさしさ，思いやりが出来るようになり，人間的に丸くなった。」などがあった。

「経済的負担」は約半数が「重い」方の自覚であった。女性の就労形態でパートの割合は42.3％もあり，経済的にあまり恵まれているとは言えないことが予測される。又，支援事業として希望することの記述内容の中にも，保育費，教育費，医療費などの経済的負担軽減を希望する記述が目についた。

「子供との遊ぶ時間」が少ないであろうことは共働きの親でもあり，ある程度予想していたものの，時間が「まあまあある」以上のものは半数弱であった。記述調査の中でも「仕事や家事に追われ，なかなか子供と接する日々の時間がないことが悩みなので，育児休暇が伸びることを希望します。」「仕事をする自分も大切にしたいので，どうしても子供と一緒にいる時間が少ない。」「子供と一緒に多くの人と触れ合っていくことが大切だと思う。仕事を続けていく中で，もう少しゆとりがほしいですね。」などがあった。子どもとの楽しい時間はかなり制限されている親が多いことがわかった。日本は戦後，経済成長を遂げ，世界でも有数の豊かな国になっているが，子育て文化の点ではむしろ貧しくなってきているように思える。せっかく子どもに恵まれながら，子どもとの遊びを共にする楽しいかかわりも十分にできないのでは，「子育て」に伴う教育機能が大きいと思われるだけに残念なことである。また子ども達が遊んだり，生活している空間や場に関して「安全で安心できる環境が必要だと思う。事件事故の多い昨今，心配事の尽きない日々です。」という記述も見られている。親も子も安全で安心できる場で，遊びの時間が権利として保障される時代，社会が望まれる。教育・医療・福祉の連携のもと，地域社会全体で真剣に取り組む必要があると考える。

親となるための教育ニーズは，男性には半数以上があまり意識されていない。又，子育ての過程で体験した喜びや葛藤，学んだこと，社会に望むことなどの自由記述式の調査では，男性は女性に比べ記述量も少なかった。男性の約半数位はこれらの事にあまり関心がないか，又はノーコメントの反応であった。現代の子育て環境に関しては，社会的にもその問題が注目されている今日，その問題意識が余りないこと自体，緊急課題としなければならないのではないかと思われる。

平成11年に成立・施行された「男女共同参画

社会基本法」は，「男女共同参画社会」の実現を緊要な課題として総合的かつ計画的に推進することを目指した法律であるが，そこでは「男女共同参画社会」を「男女が，社会の対等な構成員として，自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され，もって男女が均等に，政治的，経済的，社会的および文化的利益を享受することができ，かつ，共に責任を担うべき社会」としている。「子育て」は，母親，父親が共に責任を担って営むものであり，「子育て」から得られる喜びや苦労，またその自己教育力のチャンスも，共に享受すべき経験として社会の合意を得ていくべきものと考える。

日本人の伝統的児童観には，「七ツ前は神のうち」という見方があり，日本には古来より児童を神聖化し大切に守り育ててきた歴史がある。伝統的日本人は，地縁を中心とした村落共同体の中で，子育てを行ってきた。父親の子育てへの関与も，封建時代の武家社会の家訓にも見られるように，主体的に権威を持って行われていたという歴史を持つ。現代の父親も「子育て」に関心を寄せる者が徐々にではあるが増えてきている。そのことは分娩時の立会い出産の増加等にあらわれてきている。しかしながらまだまだ「子育て」を楽しめているというには程遠い状態である。今後のあらゆる分野での男女共同参画社会の推進のためにも，男性にも，「子育て」に伴う学びの機会を大切にして，現状よりもっと楽しんでいただきたいものである。

7．おわりに

今回の調査は，郊外の一私立保育園を利用する親を対象とした“子育て生活”に関する意識傾向であり，その解釈・考察にもかなりの限界があった。また調査した内容は，広範囲なものであったため，紙面の制限上その一部を報告した。自由記述された内容は，個人の「子育て生活」からの貴重な学びや意見が述べられているので，多くの示唆を含むものであったが，子育て意識に共通した画一的なものは見いだせなかった。それらの価値を意味づけられるところまでは分析や考察が整理できていない。今後の課題としたい。調査にあたってお世話して下さったM保育園の先生方，また記述式を含む意識調査にもかかわらず，かなりの時間を裂いて協力下さった子育て中のお母様方，お父様方に心より感謝申しあげます。

なお，本稿の要旨は第42回日本母性学会学術集会において報告した。

参考文献

1．平成10年度厚生白書
2．「新しい時代の母子保健を考える研究会」報告，中央児童福祉審議会，1989
3．「健やか親子21検討会報告書」，厚生省
4．青木康子他；助産学体系５，母子の健康科学，p 90－106，2000
5．青木康子他；助産学体系 6，母子の心理・社会学，p 47－69,2000
6．日本子供を守る会編，子ども白書2001年版，草土文化社
7．日本子供を守る会編，子どもの権利条約－条約の具体化のために，草土文化社，1995
8．原ひろ子・我妻洋；しつけ，ふおるく叢書１，弘文堂，p 11，1979
9．村井潤一；子育てと教育を考える，ミネルヴァ書房，p 16，1987
10．池木清；男女共同参画社会と教育，北樹出版，p 5，2000

A study on the degree of satisfaction and needs for support concerning "the life of child rearing" of parents whose children attend nursery school.

Taeko Ogata

Abstract

The Heisei 10th annual White Paper of Ministry of Health and Welfare raised the question in which the background reasons of Japan's rapid declining of child birth are caused by the society where people cannot hope a good dream in marriage and bringing up children.

Now it is quite a common place for the married couples to "work together" and they may find a limited time to enjoy "the life of child rearing". In spite of those facts we feel that there should be an alternative values as irreplaceable fullness as well as the emergence of dreams.

On this stand point, I carried out a research on the present situation of social supports and educational needs to enrich the level of satisfaction in "child rearing" amongst 50 parents(they work together)whose children attend nursery aiming at the society where they can find pleasure in bringing up children.

Key words: the life of child rearing, the level of satisfaction, social supports, educational needs, gender equal society